

特集「世界に誇るオンリーワン技術」を企画して

特集担当編集委員 大矢 仁史、谷 正美、真杉 隆志

資源を持たないに等しい日本が世界に伍してその地位を築くに至ったのは、開発、製造、製品力を高めていったためであり、他社にはマネのできないオンリーワン技術を活かした製品づくりを行っている企業や研究機関が国内には数多く存在する。こうした取り組みは、企業の維持・発展を支えるとともに、日本の「ものづくり力」向上に大きく貢献している。本特集では、他社との差別化を図る独自技術の開発経緯と、それがもたらした影響や成果などについて、具体的な事例を交えつつ、幅広い視点から紹介する。

福山大学の中沢孝夫氏には「固有の競争力をもつこと（もう一つのオンリーワンとナンバーワン）」をテーマに企画の趣旨であるナンバーワン・オンリーワンとはどういうことかについて解説された。とくに、自らが企業を訪問したことをベースに、企業規模にかかわらずいかにすれば競争力をつけることができるかなどを、具体例を挙げて紹介していただいた。

オンリーワンに取り組む企業の具体例として、**株北嶋紋製作所**を取材という形で紹介する。「究極の絞り加工を追求—誰も手掛けないものに魅力が」と題し、創業以来一貫して絞り部品加工を専門に手掛け、へら絞り加工においては常にナンバーワンの職人技術を保ちつつ、数多くの独自の先進技術を創造している姿を追った。

タカハ機工(株)の**大久保泰輔氏**には「オンリーワン企業・製品を目指して」と題して、社名や製品の知名度向上への取り組みのほか、海外からの安価な製品に対抗するための手段としての販売方法の見直し、さらにWEBサイト、メディア媒体の活用による企業ブランド力アップの戦略の一端がうかがえる。

ジャパンセンサー(株)の**本田雄三氏**には「今までになかった常温高速の放射温度計」をテーマに、創業時からの業態を変革し、現在の礎を築く自社ブランド品の開発に至った経緯とその開発過程、製品の特徴などについて解説していただいた。

伝統的技術として**福田金属箔粉工業(株)**の**新保洋一郎氏**には「メタルスタイリストとしてのFUKUDAのあゆみ」を紹介していただいた。1700（元禄13）年に金銀箔粉商として創業以来、産業や時代の変化に対応して技術変遷を積み重ね、現在では最先端分野にもその技術が生かされるなど、同社のあゆみが見てとれる。

研究機関からは**国研産業技術総合研究所**の**蛭名武雄氏**には「粘土を主成分とする膜『クレースト』」と題し、公的研究機関の開発技術・製品を民間企業に取り入れ生かす工夫と、素材としての特徴や幅広い使われ方を紹介いただいた。

さまざまな企業が他社との差別化を狙って、独自の技術や製品にたどり着く過程やその取り組みの一端を紹介した。こうした取り組みは今後も継続されることはいうまでもない。今回紹介した事例はほんの一部に過ぎないが、今後も機会を設けて、紹介していければと考えている。